



世持橋（紙本淡彩 沖縄風景絵図・宮崎東里筆）

戦前の沖縄風景絵図寄贈される

この絵図は、山崎正忠氏（熊本市在）が父親（正董氏・医学博士）の遺品を整理中に見つけ、当館に寄贈してきたものです。

絵は、昭和7年山崎正董氏の二度めの沖縄旅行に随行した日本画家の宮崎東里氏（1900～62年）によるもので、作品は全部で44点、沖縄本島中・南部を回り、描きためたものを二本の巻物に収めてあります。今次大戦で焼失する前の県内の史跡や、情緒豊かな風俗が描かれていて興味深く、資料として貴重なものです。

写真の絵は、かつての世持橋の欄干と、竜潭池を含むハンタン山を淡いタッチで描いています。欄干は彫刻の文様まで克明に筆を入れています。この他、那覇港棧橋付近や豊見城本丸、中城城址、内間御殿などの史跡、または砂糖製造場、糸満町豚市場などがあります。

行事案内

企画展

新収藏品展

5月13日（火）～25日（日）

- 昭和60年度に受け入れた寄贈・購入・収集品を初めて一般公開いたします。

第10回移動博物館

伊平屋村

6月5日（木）・6日（金）

- 展示：恐龍をはじめとする化石・昆虫標本・グスク出土土器・珮などの民具・美術工芸品
- 戦前の沖縄、沖縄の自然のビデオ放映
- 文化講座

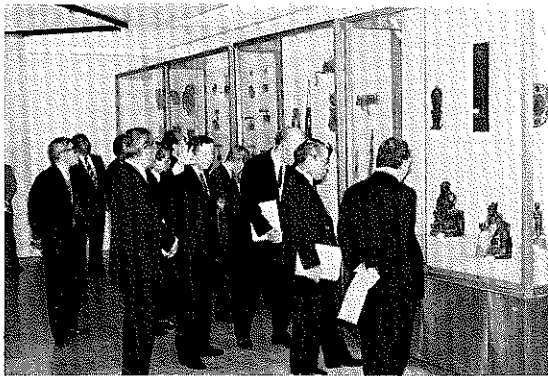
特別展

「美術工芸の美を求めて—大嶺薫コレクション展—」

昭和61年2月18日（火）から3月16日（日）までの約一ヶ月間、特別展「美術工芸の美を求めて—大嶺薫コレクション展—」が、第3室・美術工芸室と2階ロビーにおいて開催されました。これは、故大嶺薫氏の収集品を一般公開していた「大嶺薫美術館」の閉館にともない、昭和60年3月当館に寄贈されたもので、総件数1,741件（3,550点）のなかから代表的なものを選び公開したものです。



テープカット



展示風景



展示風景

2階ロビーには考古、歴史、民俗、彫刻、陶器、そして林鴻年書の扁額を、第3室には絵画、書跡、漆器を展示しました。

おもな展示品は、県指定「程順則の書」をはじめとして、漆器では螺鈿の技術を駆使した「黒漆山水楼閣人物螺鈿文机」、絵画の「手籠盛花図」など約200点余りになります。

同コレクションは美術工芸資料の絵画、書跡、彫刻、陶器、漆器と、歴史資料の古文書、金工品、装身具、貨幣、玉類が大半をしめています。そのほかに民俗資料、考古資料があり、各分野にまたがっています。収集範囲は、沖縄関係資料を中心に日本や、中国・南方諸島はもとより、ヨーロッパ・アメリカまでおよんでいます。

これらの資料は、大嶺薫氏の業績を顕彰することを目的として、大嶺薫コレクションコーナーを常設し、広く県民に公開する予定であり、現在、特別展の一部を継続して展示公開しています。

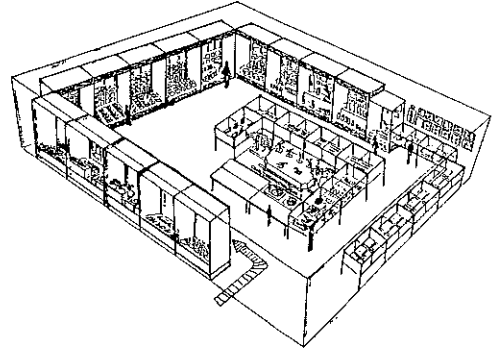
展示見学のポイント II

—第2室 自然史展示室—

私たちの住んでいる沖縄は、70余の島じまからなっています。沖縄の生物自然は、沖縄の地理的位置、亜熱帯海洋性湿潤気候、各島じまの成り立ちの歴史的経過などを抜きにして理解することはできません。これらの関わりで本県の自然には、本土（暖温帯）系、大陸（中国）系、南方（熱帯）系の生物が同時に見られるだけでなく、固有種（世界中でその地域だけにいる種類）や固有亜種が1,000種余も知られています。

自然史室は、このように豊かで特異な沖縄の自然史を、実物資料、写真および図、表を用い、博物館学習の効果を高めるよう展示しています。

なお、自然史室では、より一層学習効果をあげるために月1回、教育普及資料「沖縄の自然史」を発行しています。



展示室全図

①地史的な視点で沖縄の自然をとらえる

琉球列島の生いたちの経過を示す図、その経過と関わりのある鉱物、岩石、化石などを展示。

②身近な環境に住む生物

サンゴ礁の海岸の礁斜面・礁縁・礁池、磯、砂浜、マグローブ林、集落とその周辺、低地、河川、山地などに、どのような生物が住んでいるかを図や写真で示すとともに、児童・生徒が興味をもって自然への理解を深められるように、よく見られる生物の実物標本を展示しています。

③沖縄の生きものたち

沖縄の生物の代表的なものとして、国や県で指定されている天然記念物の一覧表および写真で展示しています。

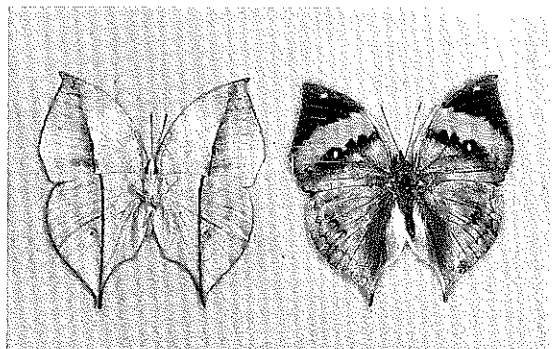
その他の沖縄に住んでいる生きものたちについて、実物標本を展示しています。



ヤンバルクイナ



ノグチゲラ



コノハチョウ

安里橋支柱の搬入



米軍司令官前庭の支柱



大城氏宅の支柱

北中城にある米軍施設ライカムのデイ米軍司令官 (JAMES L. DAY) 宅前庭に、安里橋の支柱4本があることが確認され、教育庁文化課を通じて県立博物館に移管されることになりました。

搬入作業は、昭和61年3月4日に実施され、県側から文化課と博物館の職員、米軍側から数人の兵隊の参加のもと、無事4本の支柱と基盤7コを博物館に収蔵することができました。今回の米軍施設内にある文化財が県に返還された背景にはデイ司令官の文化財に対する深い理解と適切な判断、米軍側の協力があったればのことであり、感謝の意を表する次第であります。

安里橋支柱の返還のニュースを見たということで、那覇市在住の大城陽三氏から、自宅の庭にも同じ支柱が1本あるので、博物館に寄贈したいという申し出があり、3月6日文化課と博物館の職員で博物館に収蔵することができました。快く文化財の寄贈を申し出られた大城氏に、感謝の意を表するものであります。

博物館文化講座への御案内

第139回「おもろさうし解説会」

日時：4月19日(土) 定員：20名

講師：池宮正治

第140回「民具解説会・洗骨習俗と厨子甕」

日時：5月17日(土) 定員：50名

講師：上江洲均

第141回「自然保護講座」

日時：7月26日(土)～27日(日) 定員：50名

講師：池原貞雄・新納義馬・西平守孝
城間英光・当山昌直

第142回「拓本教室」

日時：8月16日(土) 定員：20名

講師：崎間麗進・又吉真三・上江洲敏夫

第143回「紅型教室」

日時 8月22日(金)～24日(日) 定員：20名

講師：藤村怜子

第144回「中部のグスクめぐり」

日時：9月7日(日) 定員：45名

講師：知念 勇

第145回「絵画解説会」

日時：11月29日(土) 定員：30名

講師：神山泰治

第146回「織物解説会」

日時：12月6日(土) 定員：50名

講師：与那嶺一子

第147回「古銭解説会」

日時：昭和62年1月24日(土) 定員：30名

講師：髙元政秀

* 受講受付は、第139回より第144回までを、4月11日(金)より、第145回より第147回までを、8月1日(金)より行い、定員に達しだい締め切ります。電話での受け付けはいたしません。直接お申し込み下さい。

沖縄県立博物館だより No.25

発行年月日 昭和61年3月30日

編集・発行 沖縄県立博物館

住 所 〒903 那覇市首里大中町1-1

Tel 0988-86-4353

84-2243